

協栄会大久保病院における男性更年期外来受診者の臨床的検討

【目的】

当院の男性更年期外来を受診した患者のうち治療を行なった 21 例について、臨床的背景および、治療による症状、臨床パラメーターの変化を解析し、LOH 症候群に対する治療の有効性を検証する。

【対象・方法】

2017 年 8 月から 2018 年 9 月までに当院の男性更年期外来を受診した患者のうち何らかの治療を行なった 21 例を対象とした。

初診時に AMS スコア、IIEF-5 スコアの問診票による評価を行い、遊離テストステロン Free Testosterone (FT) を含めた採血を行った。診察及び採血結果を確認後、各々の症状に対しテストステロン補充療法 (ART)、もしくはその症状に対しての漢方、タダラフィルなどの内服治療を行なった。ART はエナルモンデポー (テストステロンエナント酸エステル 250mg 製剤) の筋肉内注射投与、もしくはテストステロン軟膏 (商品名グローミン) を塗布にて行なった。いずれの治療も開始 3 ヶ月後に再度、問診と採血を行い、以後の治療方針を決定した。治療の継続を希望する場合は、同内容の治療もしくは他の治療に切り替え 3 カ月間継続した後再度、問診と採血を行なった。

【結果】

平均年齢は 50.1 歳であった。初診時の AMS スコアの平均値は 52.9 点、IIEF-5 点の平均値は 13.4 点であった。初診時の血液検査所見では平均 FT 8.5 pg/ml は、平均 PSA 値 0.8ng/ml であった。BMI の平均値は 24 であった。

治療は ART が 17 例であり、そのうちエナルモンデポー単独が 13 例、テストステロン軟膏単独が 1 例、エナルモンデポーと漢方、タダラフィルなどの他剤併用が 3 例、漢方の単独療法が 4 例であった。

21 例のうち 18 例に、AMS スコアの低下が認められた。漢方の単独療法は 4 例中 3 例に AMS スコアの低下を認めた。FT は例が 21 例のうち 10 例に上昇を認めた。10 例は自覚症状の改善が見られ、治療を終了となった。11 例は 3 ヶ月の治療を継続した。

【結論】

当院での男性更年期外来受診者においては治療介入により多くの症例に AMS スコアの改善を認め、良好な成績であった。漢方だけの単独治療でも有効な症例が多く、積極的な治療介入が症状の改善に寄与することが示唆された。